様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	専門学校　社会医学技術学院
設置者名	学校法人　日本リハビリテーション学舎

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
医療専門課程（令和７年度以前）	理学療法学科（夜間部）	（夜）・通信	107 単位	7 単位	
	作業療法学科（夜間部）	（夜）・通信	72 単位	7 単位	
	理学療法学科（昼間部）	夜・通信	106 単位	9 単位	
	作業療法学科（昼間部）	夜・通信	106 単位	9 単位	
医療専門課程（令和８年度以降）	理学療法学科（夜間部）	（夜）・通信	107 単位	7 単位	
	理学療法学科（昼間部）	夜・通信	106 単位	10 単位	
	作業療法学科（昼間部）	夜・通信	106 単位	10 単位	
（備考） 作業療法学科夜間部は 2024 年度に募集停止					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.sigg.ac.jp/course/ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	専門学校　社会医学技術学院
設置者名	学校法人　日本リハビリテーション学舎

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.sigg.ac.jp/disclosure/

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	現医療法人理事長	2025.6.3 ～2029. 定時評議員会終結時	関連団体の長として本法人の業務を指導・監督する
非常勤	元関連団体役職者	2025.6.3 ～2029. 定時評議員会終結時	元関連団体の役職者として本法人の業務を指導･監督する
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校　社会医学技術学院
設置者名	学校法人　日本リハビリテーション学舎

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 【作成について】 各授業科目については、毎年度、医療専門課程の学内会議（学科会議、教育会議、教務委員会）により、授業科目の担当教員・講義内容についての検討・検証に基づき、各授業を担当する教員により、作成を行っている。 学内教務委員会による教員用内規（シラバス作成方法と手引き）の中で、授業科目名、必要単位・時間数、担当教員名、授業の一般教育目標及び下位教育目標、授業計画または学習の主題（各回の授業テーマ)、使用教室、各回の担当者名、教科書及び参考書に関する事項、学生の学習上の留意点、期末試験実施の有無、成績評価の方法は、全科目共通で記載することが必須となっており、学内統一様式でシラバス作成を行っている。 【時期について】 翌年度の講義予定（授業計画）は 1 月～2 月に担当教員が作成し、教務委員会を経て 3 月の教育会議時の議案で翌年度の事業計画が承認されることで正式決定する。3 月末に、翌年度分のシラバスを HP 上に公開する。
授業計画書の公表方法　https://www.sigg.ac.jp/course/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
学則の細目において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。
各担当教員が定め学科が承認した授業科目の試験（筆記、実技、レポート含む）により成績評価を行っている。
（参考）
細目第２７条〔進級・卒業・称号の授与〕
１　進級及び卒業は教育会議の議を経て学院長が認めるものとする。
２　各課程の修了（卒業）は、各学科に修業年限以上在学し、次の各号に定める単位数を含む全科目に合格した者について認定し、学院長が卒業証書を授与する。
・理学療法学科夜間部　124 単位
・理学療法学科昼間部　124 単位
・作業療法学科昼間部　128 単位
３　臨床実習Ⅲを履修するためには、当該実数開始以前に履修すべき全ての科目が合格又は認定されていなければならない。
成績評価に関する規程第４条〔成績評価〕
２　成績評価は、授業目標の達成度を第１条に定める学科試験により、授業要綱に記載されている「成績評価の方法」で評価する。
８　各科目の授業回数のうち欠席回数が３分の１を超えた者は、当該科目の評価を受けることができない。ただし 15 週にわたらない授業においてはこの限りではない。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）
学則の成績評価に関する規程において、成績評価は授業科目ごとに行う学科試験（期末試験、実技試験、その他の試験やレポート課題等）によって評価される。
成績評価の評定は、優（100 点満点を基準として 85 点以上）、良（84～70 点）、可（69～60 点）、不可（60 点未満）の 4 段階で行い、可以上を合格としている。
学科における学年総合評価指標には、成績評価を基にした GPA 方式を規定している。
成績評価の方法については、学則細目を HP で公開するほか、入学時オリエンテーションや、新年度に当たっての在校生ガイダンスを通じ、新入学生・在学生等に通知している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.sigg.ac.jp/disclosure/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
社会医学技術学院は、医療国家資格である理学療法士・作業療法士の養成を担う専門学校として、良質な医療専門職を育成することを目指し、その意義をもって保健・医療・福祉の分野に貢献することを目的としている。
理学療法士・作業療法士国家試験の受験要件となる卒業要件は、各学科が定める所定の全科目を所定の年次に全て合格することを定めている。学則細目、学生便覧に記載している。同時に HP に公表している。

当校ではディプロマ・ポリシー等も策定し、HP に公表している。
https://www.sigg.ac.jp/corporate/about/philosophy/

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.sigg.ac.jp/disclosure/

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	専門学校　社会医学技術学院
設置者名	学校法人　日本リハビリテーション学舎

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sigg.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.sigg.ac.jp/disclosure/
財産目録	https://www.sigg.ac.jp/disclosure/
事業報告書	https://www.sigg.ac.jp/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.sigg.ac.jp/disclosure/

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報（理学療法学科夜間部）

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療関係	医療専門	理学療法学科（夜間部）	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	夜	124 単位 (3120 単位時間)	58 単位 (900 単位時間)	34 単位 (960 単位時間)	20 単位 (900 単位時間)	0 単位	12 単位 (360 単位時間)
			（備考）（）内の数字は、令和６年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
140 人	97 人	0 人	6 人	25 人	31 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第 2 号の 3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第 2 号の 3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
（概要） 科目内容に応じて、対面授業と遠隔授業を併用し、効果的な学修が得られるように工夫している。基礎分野や専門基礎分野に関して、それぞれの専門に則した外部講師を招聘し、

質の高い内容を担保している。専門分野は、内部教員が担当し、それぞれの専門性を活かした授業を心がけている。実技演習では、複数教員で対応し、スキル向上の支援をしている。また、臨床の文脈を導入するために、臨床現場の療法士を招聘している。さらに、定期試験のほか、ワークシートやミニッツペーパーを活用して、学習の進捗をモニターし、学科内で共有しながら、個別性に配慮している。空き時間や授業外での時間も学習環境を提供し、質問には随時対応している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
32 人 （100%）	1 人 （ 3%）	22 人 （ 69%）	9 人 （ 28%）

（主な就職、業界等）
病院・診療所、介護保険施設

（就職指導内容）
就職説明会、就職セミナー、個人面談、履歴書添削

（主な学修成果（資格・検定等））
理学療法士

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
102 人	1 人	1%

（中途退学の主な理由）
学則に準じて退学

（中退防止・中退者支援のための取組）
入学前教育のなかから、理学療法士の仕事の概要をイメージさせるように配慮している。入学後は、各学年各期の当初、担任による学生面談を実施し、学修状況、生活状況、健康状況、経済状況、悩み事等を把握し、対応している。学習低迷者については、個別の指導のほか、長期休暇時を利用して協同学習の機会を提供している。経済的問題に関して、各種奨学金の紹介や授業料分納などで対応している。特に夜間部では、昼間の就労支援として、病院や施設の助手業務を斡旋している。メンタルヘルスに関しては、臨床心理士による相談室を開設しており、専門性の高い支援を提供している。また、キャリア支援室では、学生のさまざまな状況や希望に応じて、最適な就職支援を行う体制にある。

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報【作業療法学科（夜間部）】

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療関係</td><td>医療専門</td><td colspan="2">作業療法学科(夜間部)</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td>4年</td><td>夜</td><td>127 単位
(3120 単位時間)</td><td>41.5 単位
(1020 単位時間)</td><td>26.5 単位
(990 単位時間)</td><td>23 単位
(1080 単位時間)</td><td>0 単位</td><td>2 単位
(60 単位時間)</td></tr>
<tr><td colspan="7">（備考）（）内の数字は、令和６年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。
※作業療法学科（夜間部）は令和６年度より募集停止</td></tr>
<tr><td colspan="2">生徒総定員数</td><td>生徒実員</td><td>うち留学生数</td><td colspan="2">専任教員数</td><td>兼任教員数</td><td>総教員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">70 人</td><td>38 人</td><td>0 人</td><td colspan="2">5 人</td><td>5 人</td><td>10 人</td></tr>
</table>

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第 2 号の 3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第 2 号の 3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
（概要） 全授業 15 回の中で、ワークシートやミニッツペーパーの設定や、講義内容の学修状況を把握するための中間試験・小テスト等を授業によって行っている。また、定期的または随時に、担任教員により学修や進路・生活面の面談を実施していて、昼間就業先の情報提供や就業内容等の相談にも応じている。 意欲・意志のある学生に対しては、課外・学外を通じての教育活動として勉強会の開催やプログラムの紹介等を行い積極的な学修を支援している。 その他、臨床心理士による学生相談室を開設し、希望者には学修や精神心理面のケア等の機会も設けている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18 人 （100%）	0 人 （ 0%）	17 人 （ 94%）	1 人 （ 6%）
（主な就職、業界等） 病院、診療所、障害者支援施設			
（就職指導内容） 就職説明会、就職セミナー、個人面談、履歴書添削			
（主な学修成果（資格・検定等）） 作業療法士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58 人	1 人	2%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振、健康問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任による半期に一度の定期面談と、その他学修状況の変調や、学生からの希望があった際、随時面談を実施。面談内容は、学修不安、経済的・家族の状況、就業を含めた生活状況など多岐にわたる。進路に悩む場合には、学業、経済面、その他において支援し得る手立てを可能な限りアドバイスするようにしている。 進路変更希望者には、本人の希望・適性について在学中に得られた情報をフィードバックし、職業選択は多様でありもっとも自分らしい道を進めるよう、担任レベルで出来得る限りの応援をしている。		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報(理学療法学科昼間部)

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療関係</td><td>医療専門</td><td colspan="2">理学療法学科(昼間部)</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">124単位
(3120単位時間)</td><td>58.5単位
(900単位時間)</td><td>33.5単位
(960単位時間)</td><td>20単位
(900単位時間)</td><td>0単位</td><td>12単位
(360単位時間)</td></tr>
<tr><td colspan="5">(備考) ()内の数字は、令和６年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
210人	202人	0人	9人	23人	32人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 科目内容に応じて、対面授業と遠隔授業を併用し、効果的な学修が得られるように工夫している。基礎分野や専門基礎分野に関して、それぞれの専門に則した外部講師を招聘し、質の高い内容を担保している。専門分野は、内部教員が担当し、それぞれの専門性を活かした授業を心がけている。実技演習では、複数教員で対応し、スキル向上の支援をしている。また、臨床の文脈を導入するために、臨床現場の療法士を招聘している。さらに、定期試験のほか、ワークシートやミニッツペーパーを活用して、学習の進捗をモニターし、学科内で共有しながら、個別性に配慮している。空き時間や授業外での時間も学習環境を提供し、質問には随時対応している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
56 人 （100%）	0 人 （ 0%）	48 人 （ 86%）	8 人 （ 14%）
（主な就職、業界等） 病院、診療所			
（就職指導内容） 就職説明会、就職セミナー、個人面談、履歴書添削			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
198 人	16 人	8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振、健康問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） 入学前教育のなかから、理学療法士の仕事の概要をイメージさせるように配慮している。入学後は、各学年各期初、担任による学生面談を実施し、学修状況、生活状況、健康状況、経済状況、悩み事等を把握し、対応している。学習低迷者については、個別の指導のほか、長期休暇時を利用して協同学習の機会を提供している。経済的問題に関して、各種奨学金の紹介や授業料分納などで対応している。メンタルヘルスに関しては、臨床心理士による相談室を開設しており、専門性の高い支援を提供している。また、キャリア支援室では、学生のさまざまな状況や希望に応じて、最適な就職支援を行う体制にある。		

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報【作業療法学科（昼間部)】

<table>
<tr><td colspan="2">分野</td><td>課程名</td><td colspan="2">学科名</td><td>専門士</td><td>高度専門士</td></tr>
<tr><td colspan="2">医療関係</td><td>医療専門</td><td colspan="2">作業療法学科(昼間部)</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">修業年限</td><td rowspan="2">昼夜</td><td rowspan="2">全課程の修了に必要な総単位数</td><td colspan="5">開設している授業の種類</td></tr>
<tr><td>講義</td><td>演習</td><td>実習</td><td>実験</td><td>実技</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3年</td><td rowspan="2">昼</td><td rowspan="2">128単位
(3150単位時間)</td><td>66.5単位
(1020単位時間)</td><td>35.5単位
(990単位時間)</td><td>24単位
(1080単位時間)</td><td>0単位</td><td>2単位
(60単位時間)</td></tr>
<tr><td colspan="5">(備考) ()内の数字は、令和6年度以前入学者に適用される単位時間を記載している。</td></tr>
</table>

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
60人	49人	0人	5人	17人	22人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 全授業15回の中で、ワークシートやミニッツペーパーの設定や、講義内容の学修状況を把握するための中間試験・小テスト等を授業によって行っている。また、定期的または随時に、担任教員により学修や進路・生活面の面談を実施していて、昼間就業先の情報提供や就業内容等の相談にも応じている。 意欲・意志のある学生に対しては、課外・学外を通じての教育活動として勉強会の開催やプログラムの紹介等を行い積極的な学修を支援している。 その他、臨床心理士による学生相談室を開設し、希望者には学修や精神心理面のケア等の機会も設けている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（主な就職、業界等） 2025 年 4 月開設の学科のため卒業者 0 名			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等））			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	2 人	10%
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業不振、健康問題		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任による半期に一度の定期面談と、その他学修状況の変調や、学生からの希望があった際、随時面談を実施。面談内容は、学修不安、経済的・家族の状況、就業を含めた生活状況など多岐にわたる。進路に悩む場合には、学業、経済面、その他において支援し得る手立てを可能な限りアドバイスするようにしている。 要支援者の早期ピックアップのために、科目小テストの成績と 5～6 月にかけての個人面談の結果からなるべく早く声かけそして学習支援につなげている。 要支援者に対してはアドバイスをはじめ、夏休み期間や平日の授業時間以外で学習支援の時間を設定して、個別で対応をしている。 進路変更希望者には、本人の希望・適性について在学中に得られた情報をフィードバックし、担任レベルで出来得る限りの応援をしている。		

②学校単位の情報

ａ）「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 （年間）	その他	備考 （任意記載事項）
理学療法学科 （夜間部）	360,000 円	600,000 円	330,000 円	
作業療法学科 （夜間部）	360,000 円	600,000 円	330,000 円	
理学療法学科 （昼間部）	360,000 円	800,000 円	500,000 円	
作業療法学科 （昼間部）	360,000 円	800,000 円	500,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.sigg.ac.jp/disclosure/		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者として、実習施設、卒業生就職先、自治体、卒業生、地域などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの内容を含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営について評価を行っている。その結果は運営会議で報告され、次年度以降の改善に努めている。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
地方自治体	2026.4.1～2028.3.31	自治体
自営業	2026.4.1～2028.3.31	地域
医療施設	2026.4.1～2028.3.31	卒業生
大学教員	2026.4.1～2028.3.31	養成校
医療施設	2026.4.1～2028.3.31	実習施設
医療施設	2026.4.1～2028.3.31	就職先
高校教諭	2026.4.1～2028.3.31	地域
第三者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.sigg.ac.jp/disclosure/		
（備考）		
上記表中の第三者評価に係る各項目は、令和７年度に実施した学校関係者評価に関する情報を記載している		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.sigg.ac.jp/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H113321000025
学校名（○○大学 等）	専門学校社会医学技術学院
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人　日本リハビリテーション学舎

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		39 人（　人）	40 人（　人）	40 人（　人）
内訳	第Ⅰ区分	14 人	14 人	
	（うち多子世帯）	（-人）	（-人）	
	第Ⅱ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（-人）	（-人）	
	第Ⅲ区分	－ 人	－ 人	
	（うち多子世帯）	（-人）	（-人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－ 人	－ 人	
	区分外（多子世帯）	12 人	14 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人（　人）
合計（年間）				40 人（　人）
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－ 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0 人	人	人
計	－ 人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	－ 人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0 人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	－ 人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0 人	人	人
計	－ 人	人	人

（備考）

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。